

この歌声よ  
天国まで届け。

2012年  
アルゼンチン・アカデミー賞  
主演男優賞・美術賞  
メイクアップ&ヘア賞・撮影賞  
オリジナル音楽賞・録音賞  
6部門受賞

2012年  
サンセバスチャン国際映画祭  
(ホライズンズ・ラティーン部門)  
最優秀作品賞 受賞

2012年  
チューリッヒ映画祭  
《最優秀初監督賞》受賞

2013年  
ソフィア国際映画祭  
《審査員特別賞》《ヤング審査員賞》  
2部門受賞

2013年  
リエイタ・ラテンアメリカ映画祭  
《観客賞》受賞

2013年  
アルゼンチン映画批評家協会  
(新人男優賞)《オリジナル脚本賞》  
《美術賞》《音楽賞》4部門受賞

「BIUTIFUL ビューティフル」「バードマン」共同脚本  
アルマンド・ボー長編初監督作

# エルヴィス、 我が心の歌

監督：アルマンド・ボー / 脚本：アルマンド・ボー、ニコラス・ヒアコボーネ / 制作：ピクター・ボー、アルマンド・ボー  
制作補：アレハンドロ・G・イニャリトウ / 出演：ジョン・マキナーニー、グリセルタ・シチリアン、マルガリータ・ロベス

2012年 / アルゼンチン / スペイン語・英語 / カラー / シネスコ / 91分 / 英語題：THE LAST ELVIS  
配給：ハイオニア映画シネマデスク

不器用なまでに夢を追い続けた男が最後に手にしたものとは――

信じたことは最後までやり通せ。じゃないと惨めなままだ。

エルヴィスへの愛にあふれた歌心が、何故ここまで人の心を打つのか…地味だけど素晴らしい映画だと思います。そして、何とんでも主演のジョン・マキナニーが笑顔の可愛い人で、すっかり彼の演技に魅せられてしまいました。

音楽評論家・作詞家  
湯川れい子

## 夢と現実の狭間に揺れながら その孤独な魂は、導かれるように 聖地<グレイスランド>に向かった――

精密金型工場で働きながら、夜はエルヴィス・プレスリーのトリビュート・アーティストとしてステージに立っているカルロス。エルヴィスの生まれ変わりであると信じる彼は、服装から乗る車、食べるものに至るまで、本物のエルヴィスとそっくり同じものを身につけて生活をしている。更には周囲の人間に自らを「エルヴィス」と呼ぶことを強要し、娘にはエルヴィスの娘と同じリサ・マリーと名付ける程の徹底ぶりに、かつて愛したはずの妻は愛想をつかし、娘を連れて別居してしまう。そんな中、ある予期せぬ出来事からカルロスは娘の面倒を見ることになるのだが、次第に父親としての自覚が芽生え始めていく。しかし、彼には絶対に叶えなくてはならない、あるひとつの夢があった。やがて妻と最愛の娘を残し、彼はエルヴィスに導かれるように聖地<グレイスランド>へ向かうのであった――

## “エルヴィスの歌声に最も近い男”ジョン・マキナニーの熱演！ 「BIUTIFUL ビューティフル」「バードマン」の共同脚本、 アルマンド・ボー長編初監督作！

主人公カルロスを演じるのは、アルゼンチンでエルヴィスのトリビュート・アーティストとして、実際に活躍するジョン・マキナニー。本作が映画初出演だが、吹替なしの圧倒的なライブシーンをはじめ、体型や容姿、その歌声まで、エルヴィスにそっくりな彼にしかできない役柄を見事に演じきった。そんな彼から物語の着想を得て、本作を作り上げたのは、アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ監督の『BIUTIFUL ビューティフル』、『バードマン あるいは（無知がもたらす予期せぬ奇跡）』で共同脚本を務めたアルマンド・ボー。類まれな純粋さをもった、しかし不器用なひとりの男の魂の彷徨を、リアリティ溢れる演出とカメラワークで描いてみせた。監督デビュー作ながらも本作は高く評価され、国内外の映画祭で数々の賞を受賞し大きな脚光を浴びることとなった。この映画を観終えたものは、夢を追いかけて続けることの厳しさと美しさを同時に感じずにはいられないだろう。

監督：アルマンド・ボー / 脚本：アルマンド・ボー、ニコラス・ヒアコボーネ / 撮影：ハビエル・フリア / 製作：ビクトル・ボー、アルマンド・ボー  
制作補：アレハンドロ・G・イニャリトゥ / 出演：ジョン・マキナニー、グリセルダ・シチリアニ、マルガリータ・ロベス  
2012年 / アルゼンチン / スペイン語・英語 / カラー・シネスコ / 91分 / 配給：バイオニア映画シネマテスク



5月28日(土)よりロードショー!

ユーロスペース

EUROSPACE

渋谷 Bunkamura 前交差点左折  
03-3461-0211  
www.eurospace.co.jp



特別鑑賞券 ¥1,400 (税込) 絶賛発売中! [当日: 一般 ¥1,800のところ]